



先日子ども達の運動会がありました。思い返せば1年前のこの時期、長女は風邪を引き、数日間保育園をお休みしました。このお休みした数日間の間に運動会で行う演目の練習が本格的に始まったようで、運動会の1週間前、担任の先生から「実は〇〇ちゃん、大好きなダンスだったのにお休み後から突然踊らなくなってしまって…おそらくお休みしている間に練習が進み、得意なダンスなのに周りのお友達と同じように踊れないのが悲しいみたいで…」と話がありました。同時に先生から演目で行うダンスの曲名を教えてくださいました。家に帰って先生から教えてもらった話は心の中にそっとしまい、一緒に遊んでいる時に、さり気なく教えてもらった曲を流してみました。すると「え？ママもこのうたしてるの？うんどうかいでおどるんだよ～」と言って踊って見せてくれました。“なんだ～実は踊れるんだ”と思いつつも、教えてもらいながら一緒に踊って楽しみました。そして、その日の夜、布団の中で「あのね、〇〇、ほいくえんでおどっていなかったの。でもあしたからおどれそう」と微笑み、眠りにつきました。

この出来事が娘にとっては一つの壁を乗り越えるきっかけになったようで、次の日からの練習も、運動会本番も笑顔で踊りきる事ができました。とても明るい曲調のダンスでしたが、いつまでも小さいと思っていた娘が“みんなと同じように踊れなくて悲しい”とか“恥ずかしい”という気持ちを持ち、それを自分自身で乗り越えた事を思うと何だか涙が出てきてしまい、とても感動したのを覚えています。運動会は一人一人の頑張りや戸惑い、期待や不安がとても顕著に表れる行事だと思います。運動会本番の姿だけではなく、そこに向かって抱く心の成長や体の成長にもじっくり目や耳を傾け、寄り添い、どんなに小さな喜びであっても、どんなに小さな壁であっても一緒に向き合い、ありのままの子ども姿を丸ごと受けとめられる母であり、保育士でありたいと強く思いました。

